

新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開 ～「学びの地図」に基づいた各教科等の単元のデザイン～

北海道教育大学附属函館中学校研究部

1 研究主題及び副主題について

(1) 研究主題について

平成 26 年 11 月に文部科学大臣より「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問が行われ、議論が重ねられてきた。中央教育審議会教育課程特別部会は平成 27 年 8 月に「論点整理」をまとめ、平成 28 年 8 月には教育課程部会が「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」を議論の成果として取りまとめた。その後関係団体からのヒアリングを経て、平成 28 年 12 月 21 日に中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」が文部科学大臣へ答申された。これを受けて、平成 29 年 3 月 31 日に次期学習指導要領が告示され、小学校は平成 32 年度から、中学校は平成 33 年度からの全面実施が予定されている。また、平成 29 年度の「周知・徹底」期間を経て、平成 30 年度からは一部の先行実施が求められる予定である（「中央教育審議会教育課程部会資料 3」平成 28 年 8 月 26 日）。

本校は「国の先端的な研究校、大学の教育実習の機関としての機能、地域の中核となる学校としての役割を果たす」ことを経営理念の一つとして掲げている。資料 1 に示すように、これまでもそれぞれの時代に求められる教育の在り方に関する先進的で挑戦的な研究に取り組んできた。また、文部科学省や国立教育政策研究所等の研究指定への取組を通して、多くの成果を残してきた（※ 1）。次期学習指導要領（以下「新学習指導要領」）が示され、実施までの過渡期となる今こそ、本校は「国の先端的な研究校」や「地域の中核となる学校」という、いわば「新学習指導要領のモデル校」としての役割を果たしていきたい。

そこで、平成 29 年度から平成 31 年度までの 3 年間、副主題に示す課題に正対した具体的な実践研究によって、これからの新しい教育の具現化を目指し、本研究主題を設定した。

※ 1 本校が平成 29 年度に取り組んでいる研究指定及び研究助成は以下の通りである。

- ・ 文部科学省「次世代の教育情報化推進事業 情報活用能力の育成に関する実践的調査研究 情報教育の体系的な推進」（平成 29 年度）
- ・ 国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成 29 年度教育課程研究指定校事業（中学校数学）」（平成 29・30 年度）
- ・ パナソニック教育財団「平成 29 年度（第 43 回）実践研究助成 特別研究指定校」（平成 29・30 年度）
- ・ 日本財団／東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター／笹川平和財団海洋政策研究所「海洋教育パイオニアスクールプログラム」（平成 29 年度）

資料1 1985（昭和60）年度以降の本校の研究主題及び副主題

年度	研究主題	副主題
平成27年度 2015年度	今、求められる21世紀型の学力の育成を目指して（3年次）	アクティブ・ラーニングによる学習への深いアプローチ
平成26年度 2014年度	今、求められる21世紀型の学力の育成を目指して（2年次）	教科・領域を横断した基礎力・思考力・実践力の向上
平成25年度 2013年度	今、求められる21世紀型の学力の育成を目指して（1年次）	知識・技能を活用する力を育む学習指導の工夫・改善
平成24年度 2012年度	言語活動を通した思考力・判断力・表現力の評価についての組織的な取組	—
平成23年度 2011年度	学習指導要領に定められた目標等の実現状況を把握するための評価方法についての研究開発	—
平成22年度 2010年度	新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開（3年次）	全面実施を見据えた教育課程の編成
平成21年度 2009年度	新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開（2年次）	改善事項を踏まえた各教科等の取り組み
平成20年度 2008年度	新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開（1年次）	言語活動に着目した教科指導
平成19年度 2007年度	人間力を育むカリキュラムの開発（3年次）	人間力の基盤となる総合化された基礎・基本の育成
平成18年度 2006年度	人間力を育むカリキュラムの開発（2年次）	学習活動の相互補完的・相互運流的なつながりを目指して
平成17年度 2005年度	人間力を育むカリキュラムの開発（1年次）	「特別活動」と「総合的な学習の時間」の有機的な関連を生かして
平成16年度 2004年度	「確かな学力」を身につけ、自己実現できる生徒の育成（2年次）	学ぼうとする力をはぐくむための学習指導の工夫
平成15年度 2003年度	「確かな学力」を身につけ、自己実現できる生徒の育成（1年次）	発展的・補完的な学習は、いかにあるべきか
平成14年度 2002年度	「確かな学びと、「生きる力」の育成を目指して（3年次）	絶対評価を重視した指導計画と授業づくり
平成13年度 2001年度	確かな学びと、「生きる力」の育成を目指して（2年次）	「総合的な学習」の見直しと新学習指導要領に対応した必修教科の指導計画と授業づくり
平成12年度 2000年度	確かな学びと、「生きる力」の育成を目指して（1年次）	新学習指導要領が目指す教育課程の実現
平成11年度 1999年度	自主的・自発的に行動し、創造性に富む生徒の育成（4年次）	「総合的な学習の時間」への実践と課題
平成10年度 1998年度	自主的・自発的に行動し、創造性に富む生徒の育成（3年次）	特色ある教育課程の創造を目指して
平成9年度 1997年度	自主的・自発的に行動し、創造性に富む生徒の育成（2年次）	教科のクロスと自己教育力の育成
平成8年度 1996年度	自主的・自発的に行動し、創造性に富む生徒の育成（1年次）	教科指導における自己教育力の育成
平成7年度 1995年度	新しい学力観にたった学習指導の展開（4年次）	指導・評価の充実をめざして
平成6年度 1994年度	新しい学力観にたった学習指導の展開（3年次）	評価の新しいあり方を求めて
平成5年度 1993年度	新しい学力観にたった学習指導の展開（2年次）	教材開発を柱とする授業改善から
平成4年度 1992年度	新しい学力観にたった学習指導の展開（1年次）	指導計画の充実と授業改善
平成3年度 1991年度	個を中心にすえた学校教育の創造（第2期4年次）	個が生きる評価を求めて
平成2年度 1990年度	個を中心にすえた学校教育の創造（第2期3年次）	<教科>新しい視点にたつ多様な学習活動の展開（2年次） <道徳>体験を生かし、自ら考え行動する生徒の育成
平成元年度 1989年度	個を中心にすえた学校教育の創造（第2期2年次）	新しい視点にたつ多様な学習活動の展開（1年次）
昭和63年度 1988年度	個を中心にすえた学校教育の創造（第2期1年次）	新教育課程をみすえて
昭和62年度 1987年度	個を中心にすえた学校教育の創造（第1期3年次）	個を生かす学習の方略（3年次）
昭和61年度 1986年度	個を中心にすえた学校教育の創造（第1期2年次）	個を生かす学習の方略（2年次）
昭和60年度 1985年度	個を中心にすえた学校教育の創造（第1期1年次）	個を生かす学習の方略（1年次）

※平成28（2016）年度については、4を参照。

（2）研究副主題について

1年次研究副主題：「学びの地図」に基づいた各教科等の単元のデザイン

①「学びの地図」とは

新学習指導要領の下では各学校が「学校教育目標や学校として育成を目指す資質・能力を明確にし」（中教審，2016，p.31）、「どのような授業を行っていくのか，その実現に向けて（略）教育内容といった学校の資源をどう再配分していくのかを考え効果的に組み立てていくこと」（同，p.17）が求められている。新学習指導要領「第1章 総則」においても「生きる力を育むことを目指すに当たっては，学校教育全体並びに各教科，道徳科，総合的な学習の時間及び特別活動（略）の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にししながら，教育活動の充実を図るものとする。」

（文科省，2017，p.4）と述べられている。すなわち，各学校は，学校教育目標等を実現するために，学校として育成を目指す資質・能力を明らかにし，そのためにふさわしい教育内容を構成するという手続きで教育課程を編成する必要がある。そのため教育課程には，「子供たちの多様で質の高い学びを引き出すため，学校教育を通じて子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容などの全体像を分かりやすく見渡す」（中教審，2016，p.20）役割が課されることとなる。中教審はこれを，学習指導要領とともに「学びの地図」（同，p.20）と呼ぶ。

この「学びの地図」は，「教科等や学校段階を越えて教育関係者間が共有したり，子供自身が学び

の意義を自覚する手掛かりを見出したり、家庭や地域、社会の関係者が幅広く活用したりできるものとなることが求められ」（同，pp. 20-21）るとともに、授業者には「日々の授業等についても、教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組む」（同，p. 24）ことができるものとならなくてはならない。このようにして描かれた「学びの地図」を活用することによって、「教科横断的な視点から教育活動の改善を行っていくことや、学校全体としての取組を通じて、教科等や学年を越えた組織運営の改善を行っていく」（同，p. 23）ことができるようになると思う。

なお、中教審答申を整理すると、この「学びの地図」には、次の5つの意義を有することが求められていると考えられる。

「学びの地図」が有すべき5つの意義（中教審答申より 筆者作表）

5つの意義	
生徒にとって	学びの意義や見通し、関連を自覚する手掛かりを見出すことができる
授業者にとって	1時間や単元が教育課程全体の中でどこに位置づいているか、社会とどのようにつながっているかを意識できる
他教科の教員にとって	他教科等で、何ができるようになるように、何をどのように学んでいるのかを把握することができる
他学校段階の教員にとって	自学校段階での学びがどのようにつながるのかを把握することができる
家庭や地域、社会の関係者にとって	学校教育において何ができるようになるように、何をどのように学んでいるのかを把握することができる

※2 「社会とのつながり」として、中教審は各学校の教育課程が「社会に開かれた教育課題」となることを求めている。具体的には次のような点が重要であるとする（pp. 19-20）

- ①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ②これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

以上のことから、本研究では「学びの地図」を「本校が育成を目指す資質・能力や、育成を目指して展開される各教科等の単元配列や各単元で育成を目指す資質・能力等を示したもの」とおさえることとする。

②「単元のデザイン」とは

新学習指導要領は、「学習の内容と方法の両方を重視し、子供たちの学びの過程を質的に高めてい

く」ために「単元や題材のまとまりの中で、子供たちが「何ができるようになるか」を明確にしなが
 ら、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を（略）組み立ててい
 くこと」（同，p. 26）を目指しており、「長期的な視野で学習を組み立てていくことが極めて重要」
 （同，p. 29）であると述べている。このことは新学習指導要領において、「単元や題材など内容や時
 間のまとまりを見通しながら」という文言が複数回用いられていることから明らかである（文科
 省，2017，p. 7, p. 8）。

また「学びの地図」は、「その単元にどのような役割を担わせるのか」を明確にすることが重要で
 あると考える。さらには、「単元を構成する各単位時間にどのような役割を担わせるのか」を明確に
 することが重要であると考え。すなわち、その単元の学習を通してどのような資質・能力の育成
 を目指すのか（目指すことができると考えるのか）、そのために各単位時間の学習内容や生徒がど
 のように学ぶのかを構成することが必要となる。

以上のことから本研究での「単元のデザイン」とは、「資質・能力の育成を目指すために単元にお
 いて学習内容や学習方法等を構成すること」をいう。

研究1年次では、本校が育成を目指す資質・能力を明らかにした上で、各教科等の全単元でど
 のような資質・能力を育むのかを設計した「学びの地図」を描くとともに、その「学びの地図」に基づ
 いた各教科等の単元における学習内容や学習方法の構成（＝デザイン）をいかに行っていかとい
 う実践研究に取り組むこととする。

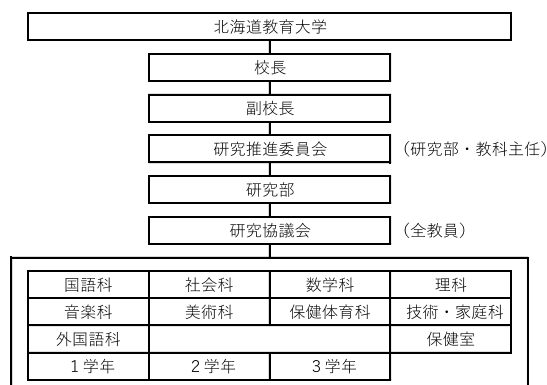
2 本研究の目的及び目標

本研究は、中教審答申（平成 28 年 12 月 21 日）「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支
 援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」及びこれに基づいて告示された新学習
 指導要領の趣旨を実現するための中学校における教育の展開の実現を目的とする。

また、先端的研究校や地域のモデル校としての役割を果たすべく、中学校における新学習指導要
 領全面実施の前年度である平成 32 年度に、他校が教育課程編成等において参考とすることのできる
 「学びの地図」等を完成させることを目標とする。

3 研究体制

本校は、北海道教育大学の下に研究を推進
 する。研究計画の立案及び運営に関しては、
 研究部が中心に取り組み、研究部長及び各教
 科主任で構成される研究推進委員会において、
 学校教育活動全体に関わる事柄の協議を行な
 う。研究協議会は、全教員が参加して隔週で
 開催し、学校研究に関する協議や教育講演会
 等を内容とする（右図）。



4 本研究までの経緯（平成 28 年度の取組）

平成 28 年度は、新学習指導要領で求められる教育活動の具体的な在り方を見据えた調査研究活動

に取り組むため、教育研究大会を開催せず、各教科の取組を中心とした準備・検討の期間とした。具体的には、①新学習指導要領の方向性に関する調査と学習会、②外部講師の招聘による教育講演会、③教科ごとの取組や成果を広く議論し発信する機会としての教科研究会、をそれぞれ実施した（資料2）。

資料2 平成28年度の取組

月日	種類	内容
9月 7日（水）	①	研究協議会「次期学習指導要領での各教科の方向性～ワーキンググループにおける審議のまとめ～」（社会）
9月 9日（金）	②	教育講演会（講師：小玉重夫 東京大学大学院教授） 「シティズンシップ教育の視点から見たカリキュラム・イノベーションとアクティブラーニング」
10月 5日（水）	①	研究協議会「次期学習指導要領での各教科の方向性～ワーキンググループにおける審議のまとめ～」（国語・美術）
10月12日（水）	①	研究協議会「次期学習指導要領での各教科の方向性～ワーキンググループにおける審議のまとめ～」（数学）
10月14日（金）	③	教科研究会（数学）「比例と反比例」（第1学年）
10月19日（水）	①	研究協議会「次期学習指導要領での各教科の方向性～ワーキンググループにおける審議のまとめ～」（理科・保健体育）
10月26日（水）	①	研究協議会「次期学習指導要領での各教科の方向性～ワーキンググループにおける審議のまとめ～」（外国語）
10月27日（木）	③	北海道函館中部高等学校との英語連携授業（外国語）
11月 4日（金）	③	教科研究会（国語）「走れメロス」（第2学年）
11月 9日（水）	②	教育講演会（講師：福本徹 国立教育政策研究所総括研究官） 「新しい教育課程と見方・考え方」
11月22日（火）	③	教科研究会（理科）「地球と私たちの未来のために」（第3学年）
11月24日（木）	③	教科研究会（社会・第1回）「地方自治」（第3学年）
11月25日（金）	③	教科研究会（美術）「書家 金子鷗亭の『線』～アートカードを活用した鑑賞・表現～」（第3学年）
12月19日（月）	③	教科研究会（社会・第2回）「財政」（第3学年）
2月24日（火）	②	教育講演会（講師：稲垣忠 東北学院大学准教授）※授業力向上セミナー 「授業・学びのデザインとICTの役割」
3月23日（木）	②	教育講演会（講師：久野弘幸 名古屋大学大学院准教授） 「今後の学習指導要領改訂の意味と教科横断カリキュラムの編成」

5 研究内容

本研究は、1で述べたように、学校が学校教育目標等を達成するために、学校として育成を目指す資質・能力を明らかにし、そのためにふさわしい教育内容を構成するという手続きでの「学びの地図」（教育課程）の編成の具現化に取り組むものである。そのため、本研究では、本校で育成を目指す資質・能力の設定を行なった後、年間の指導計画である「年間単元配列シート」をすべての教科等で作成することとした。そして、すべての教科等の全単元について、単元において育成を目指す

資質・能力を明らかにする「資質・能力シート」を作成し、その育成を実現するためにどのように学習内容や学習方法を構成するかを明らかにした「単元デザインシート」を作成することとした。単元の授業がすべて終わった後には、学習内容や学習方法の構成や、育成を目指す資質・能力の適切さなどについて、生徒や他の教科担当者等による検討・評価を行い、各シートの改善に取り組むことによって「教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと」（文科省、2017、p. 4）を目指した。すべての教科等の全単元での取組は、「各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくこと」（中教審、2016、p. 23）として説明される「カリキュラム・マネジメント」を実現することになると考える。なお、「年間単元配列シート」「資質・能力シート」「単元デザインシート」の様式については、「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立て」（文科省、2017、p. 4）ることに資するものとするために、すべての教科等で共通とした。平成 28 年度から平成 30 年度までに予定している作成及び改善の流れを別添資料 1 として示す。

以下では、具体的な研究内容として、（１）「本校が育成を目指す資質・能力の設定」、（２）「各教科等で共通した『学びの地図』の作成」、（３）「単元のデザイン」、（４）「カリキュラムの改善」について述べていく。

（１）本校が育成を目指す資質・能力の設定

中教審答申は、「資質・能力」は次の「３つの柱」に基づいて整理できるとしている（中教審、2016、pp. 28-31）。

- | |
|---|
| <p>①「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」
各教科等において習得する知識や技能であるが、個別の事実的な知識のみを指すのではなく、それらが相互に関連付けられ、さらに社会の中で生きて働く知識となるものを含むものである。
（以下略）</p> <p>②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」
将来の予測が困難な社会の中でも、未来を切り拓いていくために必要な思考力・判断力・表現力等である。（以下略）</p> <p>③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」
前述の①及び②の資質・能力を、どのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素
（以下略）</p> |
|---|

また、「資質・能力」には次の３つがあるとされている（同、pp. 32-45、ただし a）～c）の付与は筆者による）。

- | |
|--|
| <p>a) 各教科等において育まれる資質・能力
b) 教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力
c) 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力</p> |
|--|

これらは、新学習指導要領において、次のように整理されている。（文科省、2017、p. 4-5、ただし下線は筆者による）

1 各学校の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第4章総合的な学習の時間の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。

2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

(1) 各学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

(2) 各学校においては、生徒や学校、地域の実態及び生徒の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

そこで本研究では、本校が育成を目指す資質・能力について、a)各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力、b)学習の基盤となる資質・能力、c)現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の3つの側面から、その育成をアプローチすることとする。

a) 「各教科等における指導を通して育まれる資質・能力」について

1で述べたように「各学校が学校教育目標等を実現するために、学校として育成を目指す資質・能力を明らかにし、そのためにふさわしい教育内容を構成するという手続きで教育課程を編成する必要がある」。本校の学校教育目標は以下の通りである。

資料3 本校の学校教育目標（ただしア～オ）の付与は筆者による）

- ア) 強い意志をもち、主体的に行動し、創造性に富む生徒を育てる
- イ) 心身ともに健康で明るく、情操豊かな生徒を育てる
- ウ) 知性を磨き、真理を愛し、自ら努力する生徒を育てる
- エ) 秩序を守り、仕事に責任をもち、実践力のある生徒を育てる
- オ) 学校や郷土を愛し、よりよい社会の建設に協力できる生徒を育てる

学校教育目標の達成のためには、例えば、イ)を達成・実現するためには保健体育科と美術科に期待される役割が大きく、エ)やオ)の前段を達成するためには道徳科に期待される役割が大きい。また、ア)やウ)に関しては、各教科等の授業を通じて達成することが考えられる。つまり、本校の学校教育目標を達成するためには、各教科や道徳科、総合的な学習の時間、特別活動の授業が、「各教科等における指導を通して育まれる資質・能力」を明らかにした上で、その育成の実現を目指した教育活動として展開されることが重要であると考えた。すなわち、各教科等において育まれる資質・能力を意識し自覚した教育活動の展開によって、学校教育目標の達成に近づくことができると考えたのである。

b) 「学習の基盤となる資質・能力」について

「学習の基盤となる資質・能力」として、中教審は以下を例示している（中教審，2016，pp. 34-39）。

- ・言語能力
- ・情報活用能力
- ・物事を多面的・多角的に吟味し見定めていく力（いわゆる「クリティカル・シンキング」）
- ・統計的な分析に基づき判断する力
- ・問題を見だし解決に向けて思考するために必要な知識やスキル（問題発見・解決能力）など

本校は、ICT を活用した教育に関する研究推進のために、平成 24 年度からタブレット PC を導入し、学習における ICT の効果的な活用について研究を行ってきた。タブレット PC は、平成 24 年度に 45 台、平成 25 年度に 370 台を導入・貸与し、一人一台のタブレット PC 貸与を実現してきた。教科指導における ICT 活用についての実践研究としては、各教科の授業等において、説明や発表の様子を互いに動画で撮影し合うことによる評価への活用、反転授業の実施、インターネットを活用した情報収集等に取り組んできた。さらに平成 26 年度より、附属函館小中学校における ICT 活用を視点とした小中一貫に関する研究に取り組んでいる。こうした状況から本校は、学習の基盤となる資質・能力として「情報活用能力」を設定することとした。

ただし、「情報活用能力」を本校が設定することは、その他の能力（言語能力など）の育成を目指さないということではない。そのため、「情報活用能力」が、ICT を活用する能力のみではないことに留意しつつ、これまでの研究成果を活用しながら、育成を目指す資質・能力として取り組んでいくことにするた。

c) 「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」について

「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」として、中教審は以下を例示している（同，pp. 39-44）。

- ・健康・安全・職に関する力
- ・主権者として求められる力
- ・新たな価値を生み出す豊かな創造性
- ・グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力
- ・地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力
- ・自然環境や資源の有限性等の中で持続可能な社会をつくる力
- ・豊かなスポーツライフを実現する力 など

ここで再度、本校の学校教育目標（資料 3）に立ち返ると「学校や郷土を愛し、よりよい社会の建設に協力できる生徒を育てる」における、「よりよい社会の建設に協力できる」資質・能力を直接射程に入れた取組がこれまで不在となっている。

平成 28 年度より選挙権を有する年齢が満 18 歳に引き下げられたことに伴い、現代社会の諸課題に対してアプローチしたり、そのための力を育成する教育活動を展開したりすることが求められている。また本校は、平成 26 年度文部科学省「消費者教育の推進のための調査研究事業」を受託し、「消費者市民」育成のための各教科等を横断したカリキュラムの在り方に関する研究成果を有している。何よりも本校は「21 世紀に世界で活躍する人の育成」を目指している（本校 web ページ）。

そこで本校は、国や地域に限らず主体的に事柄に関わり、受動的ではなく能動的に、自ら積極的に社会へと働きかけ、参加する存在を「市民」とし、「市民として求められる資質・能力」を、育成を目指す資質・能力として設定することとした。なお、平成29年度は「市民として求められる資質・能力」における三つの柱について、中教審が示した「主権者教育で育成を目指す資質・能力」における三つの柱に拠ることとする。

以上を踏まえて、本校が育成を目指す資質・能力を次のように設定した。

- | |
|---|
| a) 「各教科等における指導を通して育まれる資質・能力」→各教科等の資質・能力 |
| b) 「学習の基盤となる資質・能力」→情報活用能力 |
| c) 「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」→「市民として求められる資質・能力」 |

(2) 各教科等で共通した「学びの地図」の作成

本研究においては、「年間単元配列シート」及び「資質・能力シート」を「学びの地図」として位置付けることとした。

① 「年間単元配列シート」

「年間単元配列シート」は、横軸に学年、縦軸に月を定め、1学年から3学年までの単元・題材の取り扱い時期を大まかに整理したものである(資料4)。なお、本シートの単元については、現行の学習指導要領及び平成28年度採択の教科書を参考にして作成している。

本シートは、共通の様式による簡易なシートによって、各教科等における学習の内容や時期を大まかに把握することが可能であり、教科等横断の手がかりとなることを期待した。また本校は、学年に固定した教科担任制ではなく、単元に応じて授業者が入れ替わる仕組みを採っており、本シートは授業計画(誰がどの学年のどの単元の授業者となるのか)を検討する際にも資料として活用された。さらに今後は、授業実践を経た上で教育課程の改善を図る際に活用され、実際にこのシートの単元配列が意図的に変更・改善されることが期待される。そういった意味で本シートは、カリキュラム・マネジメントのきっかけをつくる資料であると同時に、その成果を示す資料でもありと考えている。

資料4 年間単元配列シート(例として国語科を示す)

平成29年度 年間単元配列シート【国語科】										北海道教育大学附属函館中学校									
第1学年					第2学年					第3学年									
単元	教科・題材	時	週	月	単元	教科・題材	時	週	月	単元	教科・題材	時	週	月					
4	言葉の不思議さ 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	1	1	4	4	言葉の不思議さ 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	1	2	5	4	言葉の不思議さ 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	1	1	4					
5	二 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	2	5	6	5	二 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	4	3	6	5	二 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	3	4	5					
6	三 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	3	4	7	6	三 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	5	5	7	6	三 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	4	5	6					
7	四 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	4	2	8	7	四 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	6	3	8	7	四 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	5	4	7					
8	五 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	5	1	9	8	五 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	7	1	9	8	五 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	6	2	8					
9	六 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	6	4	10	9	六 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	8	2	10	9	六 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	7	1	9					
10	七 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	7	3	11	10	七 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	9	3	11	10	七 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	8	2	10					
11	八 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	8	2	12	11	八 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	10	4	12	11	八 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	9	3	11					
12	九 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	9	4	1	12	九 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	11	4	1	12	九 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	10	4	1					
13	十 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	10	3	2	13	十 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	12	3	2	13	十 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	11	3	2					
14	十一 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	11	1	3	14	十一 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	1	1	3	14	十一 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	12	1	3					
15	十二 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	12	1	4	15	十二 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	2	1	4	15	十二 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	1	1	4					
16	十三 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	13	1	5	16	十三 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	3	1	5	16	十三 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	2	1	5					
17	十四 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	14	1	6	17	十四 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	4	1	6	17	十四 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	3	1	6					
18	十五 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	15	1	7	18	十五 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	5	1	7	18	十五 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	4	1	7					
19	十六 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	16	1	8	19	十六 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	6	1	8	19	十六 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	5	1	8					
20	十七 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	17	1	9	20	十七 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	7	1	9	20	十七 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	6	1	9					
21	十八 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	18	1	10	21	十八 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	8	1	10	21	十八 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	7	1	10					
22	十九 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	19	1	11	22	十九 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	9	1	11	22	十九 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	8	1	11					
23	二十 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	20	1	12	23	二十 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	10	1	12	23	二十 言葉の奥に 【国語科】 【漢字】 【文法】 【語彙】	9	1	12					

②「資質・能力シート」

「資質・能力シート」は、本校が設定した育成を目指す資質・能力のうち、当該の単元で特にどのような資質・能力の育成が実現できる（実現できると考える）のかを明らかにしたシートである。平成 29 年度は、各教科と総合的な学習の時間の全単元について作成した（資料 5）。

本シートに示す資質・能力は、「各教科等の資質・能力」について、中教審答申「別添資料」に示された「各教科において育成を目指す資質・能力」として整理されたものを参照した（※ 3）。

また、「情報活用能力」及び「市民として求められる資質・能力」については、中教審答申「別紙」に示された「情報活用能力を構成する資質・能力」（p. 7-8「別紙 3-1」）及び「主権者教育で育成を目指す資質・能力」（p. 24「別紙 5」）を参照した。

各教科は「年間単元配列シート」で示した全単元について、本シートを作成した。特に、「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」については、特に育成することがふさわしいと考える単元及び資質・能力を厳選して、作成することとした。

なお、本シート作成にあたっては、作成者の負担を軽減するため、資質・能力に番号を振り、選択欄に番号を入力することでシートに当該の資質・能力の文言が反映される表計算シートを開発・活用した（資料 6）。

資料 5 資質・能力シート

（例として数学（第 2 学年「確率」）を示す）

資質・能力シート

北海道教育大学附属函館中学校

教科名	数学	学年	2	時期	1～2
単元・題材名	確率				
この単元・題材の役割					
	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力		
知識・技能	・数学的な問題解決に必要な知識		・調査や諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能		
	・日常の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察する力		・現実社会の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力		
学びに向かう力・人間性等	・数学的に考えることよき、数学的な処理のよき、数学の実用性などを実感し、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する態度	・情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度等を身に付けていること（情報を多面的・多角的に吟味しその価値を見極めていこうとする態度）			

※ 3 国語科は p. 2「別添 2-1」、社会科は p. 8「別添 3-2」、数学科は p. 28「別添 4-1」、理科は p. 33「別添 5-1」、音楽科は p. 46「別添 8-1」、美術科は p. 52「別添 9-1」、保健体育科は p. 67「別添 12-1」、技術・家庭科は p. 60「別添 11-1」、外国語科は p. 72「別添 13-1」。

資料6 「資質・能力シート」作成の負担軽減のための表計算シートの画面例（一部）

資質・能力シート

北海道教育大学附属函館中学校

教科名	美術	学年	2	時期	7～11
単元・題材名	間隔の感覚②				
この単元・題材の役割					
知識・技能	各教科において育成を目指す 資質・能力	市民として求められる 資質・能力			
	・感性や造形感覚を働かせて、材料や用具を生かし、表現方法を工夫して、創造的に表すこと				

各教科において育成を目指す資質・能力	2	3	6
市民として求められる資質・能力			

番号を選択

反映

本シートは、平成28年度に作成した第一案に基づいて、平成29年度には、単元の授業に入る前に、授業者が「子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容などの全体像を分かりやすく見渡す」（中教審、2016、p.20）ことや、「家庭や地域、社会の関係者が幅広く活用」（同、pp.20-21）することを目指し、文言の整理や資質・能力の再検討等を行った第二案を作成している（資料7）。

資料7 「資質・能力シート」の第一案（左）と第二案（右）

<p style="text-align: center;">資質・能力シート</p> <p style="text-align: right;">北海道教育大学附属函館中学校</p> <table border="1"> <tr> <td>教科名</td> <td>社会(地理)</td> <td>学年</td> <td>1</td> <td>時期</td> <td>4～5</td> </tr> <tr> <td>単元・題材名</td> <td colspan="5">世界の様々な地域（世界の姿）</td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">この単元・題材の役割</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">知識・技能</td> <td>各教科において育成を目指す 資質・能力</td> <td>情報活用能力</td> <td colspan="3">市民として求められる 資質・能力</td> </tr> <tr> <td>・我が国の国土とともに世界の諸地域における地理に関する理解（日本や世界の地域構成） ・地図や景观写真などの諸資料から、地理に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能</td> <td>・情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法・制度やマナー、個人が果たす役割や責任等について情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けていること。 （情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能）</td> <td colspan="3">・調査や諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能</td> </tr> <tr> <td>・趣旨が明確になるように内容構成を考え、自分の考えを論理的に説明したり、それらを基に議論したりする力</td> <td></td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">学びに向かう力・人間性等</td> <td></td> <td></td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>	教科名	社会(地理)	学年	1	時期	4～5	単元・題材名	世界の様々な地域（世界の姿）					この単元・題材の役割						知識・技能	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力			・我が国の国土とともに世界の諸地域における地理に関する理解（日本や世界の地域構成） ・地図や景观写真などの諸資料から、地理に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法・制度やマナー、個人が果たす役割や責任等について情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けていること。 （情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能）	・調査や諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能			・趣旨が明確になるように内容構成を考え、自分の考えを論理的に説明したり、それらを基に議論したりする力					学びに向かう力・人間性等						<p style="text-align: center;">資質・能力シート (ver.2)</p> <p style="text-align: right;">北海道教育大学附属函館中学校</p> <table border="1"> <tr> <td>教科名</td> <td>社会(地理)</td> <td>学年</td> <td>1</td> <td>時期</td> <td>4～5</td> </tr> <tr> <td>単元・題材名</td> <td colspan="5">世界の様々な地域（世界の姿）</td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">この単元・題材の役割</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">知識・技能</td> <td>各教科において育成を目指す 資質・能力</td> <td>情報活用能力</td> <td colspan="3">市民として求められる 資質・能力</td> </tr> <tr> <td>・世界の国々と地域区分に関する理解 ・地図や地球儀、大陸名や海洋名、地球上の位置などの地理に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能</td> <td>・地図や地球儀、統計資料を適切に活用するための知識と技能</td> <td colspan="3">・統計資料から情報を効果的に調べまとめる技能</td> </tr> <tr> <td>・地球上の国や都市などの位置の表し方や世界を区分する方法、世界の国々の特徴について、趣旨が明確になるように内容構成を考え、自分の考えを論理的に説明したり、それらを基に議論したりする力</td> <td></td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">学びに向かう力・人間性等</td> <td></td> <td></td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>	教科名	社会(地理)	学年	1	時期	4～5	単元・題材名	世界の様々な地域（世界の姿）					この単元・題材の役割						知識・技能	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力			・世界の国々と地域区分に関する理解 ・地図や地球儀、大陸名や海洋名、地球上の位置などの地理に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・地図や地球儀、統計資料を適切に活用するための知識と技能	・統計資料から情報を効果的に調べまとめる技能			・地球上の国や都市などの位置の表し方や世界を区分する方法、世界の国々の特徴について、趣旨が明確になるように内容構成を考え、自分の考えを論理的に説明したり、それらを基に議論したりする力					学びに向かう力・人間性等					
教科名	社会(地理)	学年	1	時期	4～5																																																																												
単元・題材名	世界の様々な地域（世界の姿）																																																																																
この単元・題材の役割																																																																																	
知識・技能	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力																																																																														
	・我が国の国土とともに世界の諸地域における地理に関する理解（日本や世界の地域構成） ・地図や景观写真などの諸資料から、地理に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法・制度やマナー、個人が果たす役割や責任等について情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けていること。 （情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能）	・調査や諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能																																																																														
	・趣旨が明確になるように内容構成を考え、自分の考えを論理的に説明したり、それらを基に議論したりする力																																																																																
学びに向かう力・人間性等																																																																																	
	教科名	社会(地理)	学年	1	時期	4～5																																																																											
単元・題材名	世界の様々な地域（世界の姿）																																																																																
この単元・題材の役割																																																																																	
知識・技能	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力																																																																														
	・世界の国々と地域区分に関する理解 ・地図や地球儀、大陸名や海洋名、地球上の位置などの地理に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・地図や地球儀、統計資料を適切に活用するための知識と技能	・統計資料から情報を効果的に調べまとめる技能																																																																														
	・地球上の国や都市などの位置の表し方や世界を区分する方法、世界の国々の特徴について、趣旨が明確になるように内容構成を考え、自分の考えを論理的に説明したり、それらを基に議論したりする力																																																																																
学びに向かう力・人間性等																																																																																	

また、「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」に関しては、どの教科のどの単元

でどの資質・能力の育成を目指した授業が行われているのかを明らかにするとともに、取り組みの有無やその濃淡を明らかにすることを目指して、『情報活用能力』育成のためのカリキュラム表』及び『市民として求められる資質・能力』育成のためのカリキュラム表』として整理した（別添資料2及び3）。

（3）単元のデザイン

1（2）②において述べたように、本研究での「単元のデザイン」とは、資質・能力の育成を目指すために単元において学習内容や学習方法等を構成することをいう。

特に本研究においては、新学習指導要領「第1章 総則 第2 教育課程の編成 1 各学校の教育目標と教育課程の編成」に注目した。ここでは、次のように述べられている（文科省, 2017, pp. 4-5, 下線は筆者による）。

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第4章総合的な学習の時間の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。

また他にも、「第3 教育課程の実施と学習評価」では、

「問題を見いだして解決策を考えたり」「生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること」を求めている（同, p.8）。

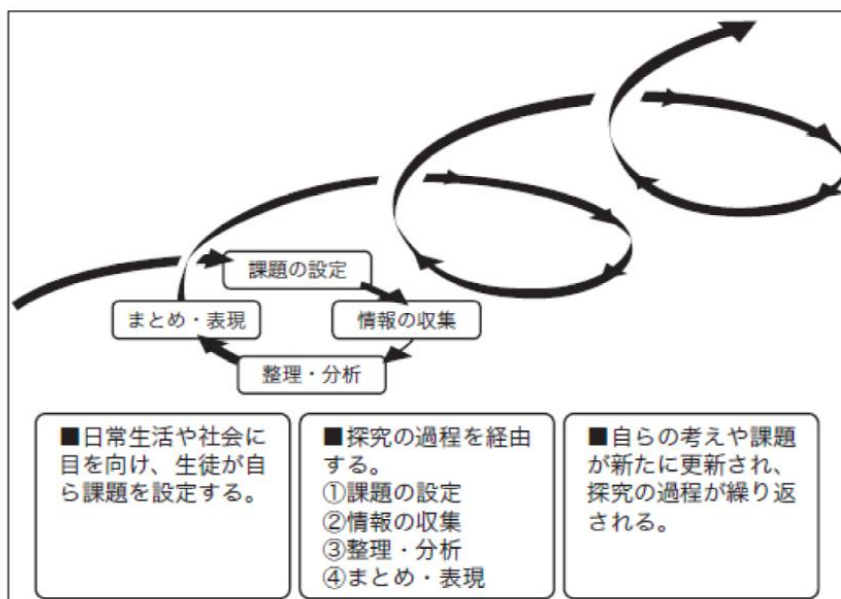
ここから本研究では、探究的な学習の視点を持って、意図的・計画的に各教科等の単元をデザインすることが重要であると考えた。そこで、各教科等の単元をデザインする際には、単位時間が探究の過程のいずれに該

当するのかを示すこととした。なお、この際の「探究の過程」は、現行の学習指導要領解説における総合的な学習の時間編に示された「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の4つとした（資料8）。また、単位時間あたりの「探究の過程」は最大で2つとすることとした。

さらに、探究的な学習の中核である総合的な学習の時間を大幅に見直し、これまでの実践の成果を基盤として改善を図り、年次進行で実施することとした。

資料8 探究的な学習における生徒の学習の姿

（文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』, 2008, p.16）



(4) カリキュラムの改善

本研究では、単元が終わるたびに評価を実施する。評価としては、①授業者による生徒への評価、②生徒による評価、③教科担当者による評価の3つとする。

①については、これまでの本校の研究成果に基づいて実施する。特に平成23年度「学習指導要領に定められた目標等の実現状況を把握するための評価方法についての研究開発」、平成24年度「言語活動を通じた思考力・判断力・表現力の評価についての組織的な取組」、平成25年度及び26年度の問題発見能力や問題解決能力を見取る問題作成等に関する研究の研究成果を活用しつつ、生徒の達成状況を的確に把握する手立てを検討・実施する。

②については、「資質・能力シート」に示した項目について、生徒が自己評価を行う形式で実施する。

③については、単元において生徒が作成したワークシートや作品等、参観した際の情報に基づいて教科担当者が協議・検討を行うことで実施する。

以上、①から③の評価を踏まえて、「単元デザインシート」及び「資質・能力シート」、「年間単元配列シート」の改善に取り組むこととする。

6 その他の取組

平成29年度は、5に述べた取組のほか、以下の4つに取り組むこととする。

(1) 道徳科を見据えた授業実践の蓄積

「道徳科」は、中学校では平成31(2019)年度から全面実施が予定されている。本校のこれまでの「道徳の時間」における授業実践や、附属旭川幼稚園・小学校・中学校が平成25年から取り組んできた「12年道徳」の実践報告を踏まえながら、道徳教育推進教師を中心にして道徳科を見据えた授業実践の蓄積に取り組む。

(2) 「市民として求められる資質・能力」育成の中核としての特別活動の改善

本校が設定した「市民として求められる資質・能力」に関わるものとして、中教審答申では、特別活動の教育内容の改善・充実として「主権者教育の視点として、多様な他者と協働しながら、地域の課題を自分事として捉えて主体的にその解決に関わり、社会に積極的に関わっていく力が今後ますます重要になる」と述べ、特別活動においてその充実を一層図ることを求めている(中教審, 2016, p. 233)。また、新学習指導要領「第5章 特別活動」においてその目標として、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ」ることなどを通して、解決するための話し合いや合意形成を図ることなどを目指している(文科省, 2017, p. 147)。そこで本研究では、「市民として求められる資質・能力」を育成する中核として特別活動の授業開発に取り組んでいく。

(3) 探究的な学びを創るためのリレー講演会(「ツキイチプロジェクト」)

本研究において、探究的な学習の視点を持って各教科等の単元をデザインすることに取り組むことに関わって、生徒が探究的な学習に自主的・自発的に取り組むためには、生徒自身の興味・関心がその出発点となると考える。そこで、本校が大学附属であるメリットを活かした教育活動の一環と

して、北海道教育大学の教員を招聘した各専門分野に関する講演会を継続的に開催し、探究的な学習に欠かすことできない事象に対する興味・関心や知的好奇心を高め広げるとともに、探究の専門家としての大学教員の真理を追究する姿をロールモデルとして学んだりする機会として、「探究的な学びを創るためのリレー講演会（ツキイチプロジェクト）」を開催する。平成 29 年度の開催予定は、資料 9 の通りである。

資料 9 平成 29 年度「ツキイチプロジェクト」（平成 29 年度講師はすべて北海道教育大学函館校の教員）

回	講師名	専門	演題
1	上山 恭男 氏	英語科教育学	「ことばとことばの距離-日本語と英語は近いか遠いか-」
2	本田 真大 氏	教育心理学	調整中
3	木村 育恵 氏	教育社会学	「ジェンダーの視点で学ぶ私たちの多様性」
4	橋本 忠和 氏	美術科教育学	「描画の情報を読み解く-この絵は誰の絵？もしかしてサルの絵？-」
5	金光 秀雄 氏	数理情報工学	「つながり方の数理情報工学-グラフ・ネットワーク理論、4色問題、経路探索-」
6	田中 邦明 氏	理科教育学	「地域や世界の人々と取り組む大沼の自然環境保全-水の汚れの原因とその問題解決策を探求して-」
7	細谷 一博 氏	特別支援教育学	調整中
8	内藤 一志 氏	国語科教育学	「絵本の世界-国語の教科書と比較して-」

7 各教科等が設定する教科研究主題（平成 29 年度）

本研究では、5 に示した各教科等で共通した取組を基盤として、具体的な研究推進は各教科等担当者が中心となって取り組むこととする。各教科が研究の方向性や明らかにすべき事柄として設定した教科研究主題は、以下の通りである。

教科名	教科研究主題
国 語	国語科における探究的な学習を実現するための単元構成の工夫・改善
社 会	「単元を貫く学習課題」による探究的な学習を実現する単元構成の工夫・改善
数 学	数学的活動への取組を促し、新たな疑問や問いを導き出すための単元構成の工夫・改善
理 科	理科の見方・考え方を育む、領域の特性を生かしたカリキュラムデザイン
美 術	学びの深まりが自覚できる美術の学習指導を目指して～「図画工作」から「美術」への学びの系統性～
保健体育	「何を、どのように学ぶか」を見通せるようにする単元構成の工夫・改善
外国語	言語能力を構成する資質・能力の育成を目標としたカリキュラムデザイン

8 今後の研究の取組と展開

平成 29 年度は、平成 28 年度末に第一案として整備した「年間単元配列シート」及び「資質・能力シート」に基づいた「単元デザインシート」による各教科等の授業実践を蓄積するとともに、授業実践後の評価を踏まえた改善に取り組む。

また、主に中教審答申に拠った研究 1 年次の研究成果と課題を踏まえながら、研究 2 年次を見通しては、新学習指導要領に述べられている事柄に関する実践研究の展開が必要であると考え。具体的には、研究 1 年次に取り組んだ「資質・能力シート」の文言の整理・改善、新学習指導要領で示

された各教科等の目標や内容についての整理や各教科等の「見方・考え方」に関する実践研究の蓄積、学習評価の在り方の検討、教科等横断的な視点での教育課程の編成、小学校及び高等学校などとの間の連携などに取り組む必要があると考えている。

本稿においては、以下より引用を行なっている。

- ・中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」平成 28 年 12 月 21 日，
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/12/27/1380731_00.pdf（平成 29 年 5 月 29 日アクセス）
- ・文部科学省『中学校学習指導要領』平成 29 年 3 月 31 日，
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_5_2.pdf（平成 29 年 5 月 29 日アクセス）
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』，2008 年，教育出版

また、本稿執筆にあたって参考にした主な文献等は、以下の通りである。

- ・北海道教育大学附属函館中学校 研究紀要
- ・文部科学省『中学校学習指導要領』，平成 20 年 3 月
- ・文部科学省初等中等教育局教育課程課「主権者として求められる資質・能力を育む教育の推進」，文部科学省教育課程課編集『中等教育資料』第 967 号（平成 28 年 12 月），pp.10-13，学事出版
- ・桑原敏典「主権者として求められる資質・能力を育むための学校教育改革に向けて」，文部科学省教育課程課編集『中等教育資料』第 967 号（平成 28 年 12 月），pp.14-19，学事出版
- ・文部科学省生涯学習政策局情報教育課「情報活用能力を育む教育の推進」，文部科学省教育課程課編集『中等教育資料』第 969 号（平成 29 年 2 月），pp.14-17，学事出版
- ・小柳和喜雄「情報活用能力の実態とそれに対応した教育の推進」，文部科学省教育課程課編集『中等教育資料』第 967 号（平成 29 年 2 月），pp.18-23，学事出版
- ・文部科学省初等中等教育局教育課程課「教育課程全体の改善の基本的な方向性」，文部科学省教育課程課編集『中等教育資料』第 971 号（平成 29 年 4 月），pp.10-21，学事出版
- ・無藤隆「『社会に開かれた教育課程』と次期学習指導要領等」，文部科学省教育課程課編集『中等教育資料』第 971 号（平成 29 年 4 月），pp.22-25，学事出版
- ・教育課程研究会編著『「アクティブ・ラーニング」を考える』，2016 年，東洋館出版社
- ・溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』，2014 年，東信堂
- ・小玉重夫『シティズンシップの教育思想』，2003 年，白澤社
- ・小玉重夫『学力幻想』，2013 年，筑摩書房
- ・長沼豊，バーナード・クリックら『社会を変える教育-英国のシティズンシップ教育とクリック・レポートから』，2012 年，キーステージ 2 1
- ・東京大学教育学部カリキュラム・イノベーション研究会『カリキュラム・イノベーション-新しい学びの創造へ向けて』，2015 年，東京大学出版会